

自律・街並み景観 まちづくりの先進地を視る

平成18年度区長研修報告

2年に1回開催されている区長研修会が、6月8日(木)から10日(土)の2泊3日に渡り、28名の区長の参加で実施されました。このたびの研修は、新潟県・長野両県の自律のまちづくりを実践している自治体、景観に力を入れてまちづくりを進めている自治体の先進事例を視察研修するというものでした。この研修の内容等について報告させていただきます。

1日目の6月8日(木)は、早朝6時に中央公民館に集合し、早速バスに乗車し、一路目的地を目指して出発した。天気は梅雨の季節にもかかわらず快晴。長い時間をかけての移動の車窓には、庄内路、越後路の豊かな田園風景が広がり、好天と相まって、参加者には期待感と爽快感が感じられました。新潟県の小千谷地方に入ったときに車窓に入ってくる景色は、突然、山肌が茶褐色になり、木々が倒れているという光景に変わりました。平成16年10月23日に起きた中越地震の傷跡です。しかしながら、山々での防災工事、高速道路

上の舗装工事、学校のグラウンドの仮設住宅と、急ピッチで進む復旧作業も垣間見え、参加者一同、一刻も早い地震の復興を願うものでした。

最初の視察地であります新潟県中魚沼郡津南町には、午後1時30分に到着しました。津南町は、信濃川沿いの河岸段丘にあつて新潟県の最南端、長野県との県境を接するところに位置しています。この冬の豪雪で、テレビや新聞で話題となったところです。越後湯沢から峠道を越えて津南町に入る道路の脇や沢沿いにはまだ雪が残っていて、豪雪のすごさがうかがえました。

つなまち 津南町 (新潟県)

この度の研修の目的の一つは「自律を目指したまちづくり」です。津南町は、平成の市町村合併をどうするかということを町民や議会が論じ、結論として平成15年1月16日に「市町村合併を選択しないまちづくり」を決定し、それから2カ年に渡って町の全職員が研究・討議を重ね、また、多くの町民の協力も得て、官民協働の「新生津南

町自律に向けた町づくり報告書」を平成17年3月に策定、現在の報告書に基づいて様々な計画がたてられ行政が運営されている、という町です。この町を訪ねて、担当の方よりここまでの経緯と今後の方向性を直接聞くことにより、金山町での自律に向けたまちづくりの一助となることができるということから、研修地に選ばれました。町に着くと、さっそく役場を訪ね、報告書策定の責任者である企画財政班



長の小野塚さんより「自律に向けた取り組み」について説明していただきました。20年先まで見越して町の将来の姿が描かれた「新生津南町自律に向けた町づくり報告書」に基づいて進められている行政の全事業見直しや財政シミュレーション、行財政改革、組織・機構改革等について詳しく聞くことができました。また、中越地震や今年度の豪雪時の対応についても説明していただきました。

参加した区長のみなさんからの積極的な質問に対して、小野塚さんには丁寧に答えていただき、とても良い研修となりました。その後、国営農地開発

とうみし 東御市 (長野県)

3日目、6月10日(土)は、東御市の海野宿を訪ねました。ここは、北国街道(越後高田から追分(軽井沢)に至



る街道で、佐渡の金銀を運ぶ道として江戸時代に栄え、大名の参勤交代や善光寺参りでも賑わった)の宿場町として、600メートルに渡り当時の街道の面影が残されおり、「重要伝統的建造物保存地区」や「日本の道百選」にも選定されている場所です。木造家屋が立ち並ぶ家並みと清流や木々がおりなす景観は金山の風情にも似たものがありました。ここでは、表の通りには電柱はなく、建物の裏側に電柱が立ち並び裏配線が施されておりました。その

事業の現場を案内していただきました。河岸段丘の台地の上に広大な農地がひろがり、アスパラガスや葉タバコの畑の規模の大きさに圧倒されました。津南町は雪多い山里というイメージで訪ねましたが、魚沼山コシヒカリ、ゆり栽培、アスパラガスと農業を中心に大規模経営が営まれ、農産物もブランド化されており、これを産業の軸として、自律を選択したというののわかるような気がしました。

おふせまち 小布施町 (長野県)

2日目、6月9日(金)は長野県小布施町を訪ねました。小布施町は、街並み修景事業や、花のまちづくり事業



後、国宝の松本城を見学し、帰りの途につきました。

この度の研修を通じて、自律のまちづくりにとって住民としてどのようなことを成していったらいいのか、景観事業でどんな取り組みをしていったらいいのかなど、考えていかなければならないことについて、改めて認識させられました。私たち区長・公民館長連絡協議会が取り組んでいる「町づくり推進委員会活動」や「花いっぱい運動」など、このたびの研修内容と重なる部分もあります。見てきたものを直ぐに取り入れるということは出来ないかもしれませんが、少しずつ金山に合ったものを取り入れながら、住民として、「住んで良かった町、住みたくなる町」を目指してまいります。

また、この度の研修を通じて、区公連としての様々なことに対する意欲や連帯感、協調性というものを感ずることができました。この研修が、区長のみなさんの金山のまちづくりに対する見識を高め、新たな創造への一翼となることがつながるのではないかと思います。区公連の今後のまちづくりへの取り組みがさらに発展することを願い、報告を終わります。

金山町区長・公民館長連絡協議会
会長 柿崎 昭一

と景観にこだわった取組みが展開され、全国的にも知名度の高い町です。ここでは、景観施策についての研修を目的に、小布施のまちづくりと地域ブランドに関わるソフト事業を展開している第3セクター(株)ア・ラ小布施を訪ね、企画部長の関悦子さんから説明を受けました。会場となったところは鉄道の駅に併設する案内お休み処「六斎舎」です。ここでは、駅に併設することにより、交流・出合いの拠点として、多くの人々のコミュニケーションの場として活用され、特に、来訪者を巻き込んだ活動が展開されているとのことです。



関さんは、小布施のまちづくりについて、経緯や今目指していることを熱く語られ、その姿勢には初めてであったにも拘らず、ぐいぐい引かれる魅力があり、まちづくりの推進役としての意気込みが感じられました。9日の天気はあいにく雨でしたが、中心部の街並み修景事業の核となっている小布施堂や榎一市村酒造場の一体を案内していただきました。これらの事業は行政ではなく、民の主導に

